

出張報告

報告日 令和2年12月7日

会派名	民友
報告者氏名	相澤宗一、佐藤和典、近藤由香里
種別	■調査研究（□行政視察） □研修会 □要請・陳情 □各種会議
用務	（1）福島第一原子力発電所 （2）福島県東日本大震災・原子力災害 伝承館
日時	令和2年12月3日（木）（1）9:00～12:00（2）14:00～15:00
場所 （会場）	福島県双葉郡（1）大熊町 （2）双葉町
調査項目等	（1）処理水の性質および処分方法について （2）複合災害の記録や教訓について
概要	<p>（1）福島第一発電所 処理水の性質および処分方法について</p> <p>対応者（東京電力ホールディングス株式会社）</p> <p>◆福島第一原子力発電所長 磯貝 智彦 氏 ◆福島第一廃炉推進カンパニー視察コミュニケーショングループ課長 渡邊 修 氏</p> <p>廃炉資料館（事前説明）</p> <p>①シアター上映（地震発生から原子力事故とその対応）②処理水の説明</p> <p>新事務本館会議室（視察概要説明）</p> <p>① 1～4号機の状況 ② 港湾内外の放射性物質濃度の変化 ③ 汚染水と原子炉循環冷却の概念図 ④ 「汚染水対策」の3つの基本方針 ⑤ 重層的な汚染水対策に伴う汚染水発生量の低減 ⑥ 労働環境の改善 ⑦ 中長期ロードマップ改訂・中長期実行プランの概要</p> <p>福島第一原子力発電所・構内視察</p> <p>①既設多核種除去設備（既設ALPS） ②増設多核種除去設備（増設ALPS） ③1～4号機原子炉建屋外観俯瞰エリア 【*バスから降車】 ④地下水バイパス設備 ⑤サブドレン浄化設備 ⑥海側設備 ⑦6号機非常用ディーゼル発電機 ⑧雑个体廃棄物焼却設備 ⑨固体廃棄物貯蔵棟（第9棟） ⑩乾式キャスク仮保管設備 ⑪免震重要棟 ⑫高性能多核種除去（高性能ALPS）設備 ⑬ALPS 処理水サンプル</p> <p>汚染水処理について</p> <p>福島第一発電所の汚染水（燃料デブリの冷却水や発電所に入り込んだ地下水・雨水等、大量の放射性物質を含む水）は各種装置により浄化され、処理水としてタンクに保管されている。セシウム吸着装置→淡水化装置→多核種除去設備を経て、大部分の放射性物質は除去されるがトリチウムだけは残る。</p> <p>トリチウムは水と結びつき自然界に広く存在する放射性物質であり、体内に入っても水と同様に排出され、濃度が低ければ人体への影響は低い。</p>





トリチウム水の処理方法は国により水蒸気放出と海洋放出が検討され、特に海洋放出は実績がある確実な方法だが、地元の双葉町・富岡町以外の自治体は風評被害を恐れ「サイト内に留め置くべき」との姿勢が強い。

サイト内の保管容量は 2022 年に上限に達することから、風評被害の払拭とあわせて処理方法への理解を得ることが課題である。

(2) 福島県東日本大震災・原子力災害 伝承館

今年 9 月に開館した博物館・情報発信施設。東日本大震災と津波に伴う原子力災害を後世に伝えることを目的とし、資料や映像証言などを以下のテーマ別に展示。

- ①プロローグ（導入シアター）
- ②災害の始まり
- ③原子力発電所事故直後の対応
- ④県民の想い
- ⑤長期化する原子力災害の影響
- ⑥復興への挑戦



所 感 等

【相澤宗一】

今回の視察は、現在国家的課題である福島第一原子力発電所における処理水の性質とその扱いについて知見を得ることを目的に行った。

現在も国内外の原子力施設からは例外なくトリチウムを放出しており、このトリチウムに対する誤解は、すべての原子力発電所にも関係してくる懸念があるため、それを払拭したいと考えた。

普通の水と挙動が変わらず、人体への影響はないが、風評という形で福島復興を妨げてしまう心配がある。

国による基準やそれよりさらに厳しい基準を設け管理していることを踏まえ、地域の皆様には安心してもらえるには、我々伝える側がしっかりと知識、正しい情報の提供に努める必要がある。

【佐藤和典】

福島第一原発事故の検証や対策、及び福島県内の復興等を調査・研究し知見を深めることが、柏崎刈羽原子力発電所の再稼働や柏崎市の原子力行政を考える際に重要と捉えており、会派として 1 年に一回以上は何らかの形で福島県を訪問することにしている。

福島第一原発の視察は昨年に続いて 1 年振りとなるが、今回は入れなかった新事務本館を視察することが出来、作業員の労働環境についても確認できた。

事故当時敷地内は放射線量も高く、100%防護服着用での作業（視察も）であったが、年々敷地内の除染や舗装等が進み、現在敷地内の 96%のエリアで一般服での作業が可能となっている。

今回の視察テーマである「処理水の処分方法」については、サンプルや現地を見ながら説明を受け、東電 HD や国の考えていることが理解できたが、風評被害につながっては絶対にいけない。

【近藤由香里】

約 1 年ぶりの福島第一原子力発電所視察であったが、前回と比べてかなり作業が進んでいると感じた。また発電所構内の 96%が一般作業服エリアとなり、1～4号機原子炉建屋外観俯瞰エリアではバスから降車することができた。

処理水については浄化方法について説明を受け、また実際に浄化装置や透明な処理水サンプル(容器入り)を目視し、確実に安全性が高まっていることが理解できた。

トリチウム水はすでに国内外の原子力施設から海洋放出されている。風評被害によって廃炉作業が滞ることはあってはならないと思う。福島復興のためにも処理水への理解促進を図りたい。